



100周年生徒実行委員会とは？



各プロジェクトの進捗状況を確認する委員たち

10月4日(月)の放課後、1年1組教室で100周年生徒実行委員会が行われた。

りんどう祭のシンポジウムで活躍した100周年生徒実行委員会。存在は知っていても、実際どんな活動をしているのか詳しく知っている人は少ないのではないだろうか。100周年生徒実行委員会は、2年後の須坂高校100周年を大いに盛り上げるために、学校の図書館のリノベーションをはじめとする新しいプロジェクトを計画、実行している。図書館のリノベーション以外にも、実現するかはまだわからないが、99年祭や空き店舗

を利用したお化け屋敷、百々川の鯉のぼりを龍にするなどたくさんユニークな案がある。毎週月曜日の放課後に定例会が開かれ、委員同士で話し合ったり意見を出し合ったりしながら各プロジェクトについて構想を練っている。

この会の中で印象深かったことは、委員の勢いだ。大半が1年生の委員であるにも関わらず、発言の場では続々と手が上がり、各々が調べたことや感じたことを発表していく。このような環境である理由について、「みんなが発言しやすい雰囲気を作れているのが1番だと思います。」と

号 10月 3年 和令
委員会 片桐
新聞 井酒

副委員長の徳竹創来さんは言う。彼の言う通り、そこには、何を言っても受け入れてもらえる、あたたかい雰囲気がある。臆することなく意見を言える環境の裏側で、このような環境を生み出してくれている人たちを忘れてはならない。

100周年生徒実行委員会に関する詳しい情報や見学・参加希望については、委員長の1年1組駒村太一さんか、副委員長の1年5組徳竹創来さんまで。



委員長の駒村さん(左)と副委員長の徳竹さん(右)

須坂高校から世界へ

10月5日(火)、6日(水)にノーベル物理学賞及び化学賞の発表があった。

今年は残念ながら受賞されなかったが、毎年ノーベル賞候補にあげられている教授がいる。須坂高校卒業生である信州大学の遠藤守信特別名誉教授だ。遠藤教授は、世界で初めてカーボンナノチューブの生成に成功し、成長メカニズムを提案された。また、カーボンナノチューブの大量生成法を開拓し、カーボ



遠藤守信特別名誉教授

ンナノチューブをリチウムイオン電池の電極添加材に応用することで、電池特性が大幅に向上し、昨今の携帯電子機能の発展に貢献された。

10月6日(木)の午後、2年生を中心に羅東須坂オンライン交流会が行われた。

羅東須坂オンライン交流会は須坂高校の姉妹校である台湾の羅東高校と月に1回開催される会である。今回は、羅東高校の生徒を須坂高校の2年生の世界史の授業に招待し、グループディスカッションを行った。授業後は2年1組と6組の生徒24名が羅東高校の生徒とフリートークを行った。フリートークは羅東高校の生徒と自由に会話でき、Instagramでつながったり、LINEの交換等もできる。

今回のフリートークで印象深かったことは、言

言葉は伝わらなくても...

@羅東須坂交流会

言葉は伝わらなくても、なんとなく意味がとれて会話になるという点だ。ある羅東高生は、「言葉聞き取れなくても、お互い翻訳を使ったり、写真を見せたり、体を使って表現したりするなどで、日本の高校生と交流できたことはとても特別な経験になりました」と声を弾ませた。外国人と話すのに必要なのは他国の言語を理解するよりも話そうとする意欲の方が大切だと感じた。

今後は11月に姉妹校締結二周年記念式典、12月に合同研究発表会が予定されている。羅東須坂オンライン交流会についての詳しい情報は英語科の原先生まで。